

創立 60 周年記念式典 祝辞



一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

会長 宮島喜文

本日、ここに社団法人岐阜県臨床検査技師会創立 60 周年記念式典が北村顕会長の下で、岐阜県の行政や医療団体など関係団体並びに岐阜県臨床検査技師会の会員、賛助会員の皆様、多数ご参集の中、このように盛会に開催されますことをここからお慶び申し上げます。

戦後の復興期の中、貴会が前身である日本衛生検査技術者協会岐阜県支部として、発足してから 60 年を迎えました。今日に至るこの長き道程の中で職能団体として、今日の組織基盤が確立してきた先輩諸氏の皆様のご労苦に対しまして、深く敬意を表すところであります。

日頃の活動においては、多岐にわたる学術研修会が活発に行われ、会員への知識普及や技術の習得に努められております。また、県内の市民健康まつり参加を通じて、県民の健康増進に寄与しておられます。

また、私ども、日本臨床衛生検査技師会の臨床検査の精度管理事業や精度保証施設認証事業、更にはエイズ撲滅を目指す公益事業にも積極的に参加いただいております。この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、日本臨床衛生検査技師会も 5 月 26 日の定時総会において、新たな体制となり、「未来を切り開く日臨技を目指して」、活動を始めました。過去の歴史や実績を踏まえ、新たな事業に取り組みます。具体的には、未来構想から新マスタープランの策定、チーム医療推進、生涯教育の充実、国際医学検査学会の日本開催の招致など様々な課題に対して、執行理事・理事など役員をはじめ一丸となり、より多く会員の皆様の声を反映できるように進めてまいります。

社団法人岐阜県臨床検査技師会の会員の皆さまをはじめ、関係各位の皆さまの一層のご支援・ご協力を願ひ申し上げます。

最後に、貴会がこれを機に、更に社会貢献を進められ、地域で信頼される医療団体となり、発展されますことと、会員の皆様をはじめ本日もご列席の皆さまがご健勝でありますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成 24 年 6 月 23 日

祝 辞



岐阜県医療整備課

後 藤 賢 也

岐阜県臨床検査技師会におかれましては、創立以来、60年もの長きにわたり、地域保健事業への協力とともに、臨床衛生検査に関する技術及び知識の向上を図り、もって公衆衛生の向上と県民の健康の保持増進に寄与されておられますことに深く敬意を表します。

近年、食生活などライフスタイルの多様化、少子化や高齢化などの社会構造の変化が進み、糖尿病、高血圧症といった生活習慣病の患者が増加しており、血液検査をはじめとする臨床検査の結果は健康管理のための指標として県民の関心は高まっております。

また、医師、看護師、臨床検査技師といった医療従事者が連携して治療に当たる「チーム医療」が注目されております。医療の高度化に伴い役割の専門化、細分化が進んでおります中、医師の診断の拠り所となる臨床検査というものは極めて重要であります。

こうした県民の健康保持に重要な役割を担う検査に取り組んでいただくことが、岐阜県の医療体制の充実につながるものと考えております。

岐阜県といたしましても、誰もが安心して暮らせる医療体制のさらなる充実に向け、本日お集まりの皆様がたをはじめ、関係者の方々のご理解とご協力をいただきながら、適切かつ効果的な施策を実施してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年9月29日からは、いよいよ「ぎふ清流国体」の本大会が開催され、10月13日からは、障がい者のスポーツの祭典である「ぎふ清流大会」が開催されます。競技者、観客の皆様が安心して参加できる大会にするには、医療従事者の皆様のご協力が不可欠でございますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

最後に、社団法人岐阜県臨床検査技師会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

平成24年6月23日

創立 60 周年によせて



一般社団法人岐阜県病院協会

専務理事 佐々木 旭

社団法人岐阜県臨床検査技師会が、創立 60 周年を迎えられ誠にお目出たい限りで衷心よりお祝い申し上げます。今日、医療崩壊、政治崩壊とか、制度疲労と硬直した前に進むことができない中で、医療業界は、県民、国民の声に支えられ、漸く、曙光が差ししてきた感じがします。加えて、特に病院においては、科学医療、集学医療、先進の診断治療機器の活用が、チーム医療の必要要件となり、遺伝子治療、再生医療に係る臨床検査技師に対する評価は、極めて大きくなりました。かつて、病院は、氷河の時代と称され経営環境の厳しい中で、職員は低い処遇を強いられました。しかし、使命感に支えられ、黙々とこれに耐えてきたのは事実です。現在、臨床検査技師もそのミッションの中で、特に高度先進医療の実務に携わっています。再生医療における細胞、免疫、医療関連感染防止、医療安全に関しても、病院の診療報酬上の評価要件になりました。医療業界は、従来、県民国民への発進力が弱く、永年、わが国の世界に冠たる健康寿命への貢献度は低く抑えられてきましたが、インフォームドコンセント、医療の透明性、セカンドオピニオンのキーワードの県民国民への浸透がこれをカバーしてきました。しかし、今の IT 時代には、より積極的な発信力が必要であろうと強く感じます。これは、より、県民国民のための医療として、専門ばかの分野に閉ざされた県民国民自身のための選択肢の提供となるものと考えます。今日は、公的病院のみならず民間病院でも、臨床研究が多く行われ医療倫理面の配慮に支えられ、多くの臨床検査技師がこの部門で活躍されていることに多大な敬意を表します。これは、私ことで恐縮ですが、私自身は、高校は故あって工業化学科と普通科を、大学は法律学科でしたが、米空軍の医務室を引き継いだ航空自衛隊の衛生隊で、同基地で発生した集団赤痢（菌種：ゾンネ・隔離病棟 300 人設置）の対処に関わり、これが評価され旧防衛庁の航空幕僚監部衛生部での永年勤務の発端となり、衛生検査技師と臨床検査技師の資格を取得するきっかけとなりました。私共の大学卒業時も、全く不景気で、奈良の幹部候補生学校、宇都宮の操縦学校に行き、或る時点まではパイロットの養成課程に籍をおきましたが、衛生部門に転向したのはこの赤痢のお蔭でした。従って、皆様と私は同職ですので貴協会に係る事項は他人ごとでなく、貴協会の永久のご発展とご繁栄を強く願わずにはおられずこれは蛇足で汗顔の至りです。

祝 辞



一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

中部圏支部長 横地 常広

社団法人 岐阜県臨床検査技師会の創立 60 周年記念誌発刊に際し、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会中部圏支部を代表して、お祝いを申し上げる機会を得ましたことは誠に光栄に存じます。

医療を取り巻く情勢は非常に厳しいものがありますが、医療現場における「検査データ」は、欠くことのできない重要な情報として認識されています。60 年の歩みの中で、先輩技師の先生方のご尽力により、検査技術として目覚ましい進化を遂げてきました。自動化が進み、IT 化の波が押し寄せ、先輩たちが想像すらできなかった検査室が出来上がっています。特に検体検査部門では、自動化が加速し、効率化が叫ばれ、大きく様変わりしました。検体サンプルは、検体搬送ラインによって運ばれ、日々進化を続ける自動分析装置にかけられ、短時間で検査データが次々に出力され、システム化された「再検ロジック」で判読され、問題がなければ自動的に検査結果が臨床に提供されています。検体検査部門以外でも当然のごとく自動化の波は押し寄せています。医療現場における臨床検査技師の立ち位置も大きく変わろうとしています。生理機能検査が、臨床サイドからの要望により業務拡大が進み、検査室外の医療現場で働く機会も増えています。チーム医療を担いスタッフの一員として、我々臨床検査技師の根幹である「精度保証」を担保する上で、ともすれば忘れがちな「基礎知識・基礎技術」について、立ち止まって、再認識する必要性を感じています。検査技術の研鑽と伝承を忘れることなく、最度足元を確認し、次世代を担う臨床検査技師の育成に努めていきたいと思えます。中部圏支部を構成する富山県、石川県、岐阜県、三重県、愛知県、静岡県技師会とともに、学術活動、精度管理事業、公益事業を軸として中部圏支部が一丸となって、技師会活動を展開していきたいと考えています。

岐阜県臨床検査技師会におかれましては、創立以来実に半世紀の長きにわたる研鑽の道のりを経て、ここに記念すべき節目を迎えられました。精度管理事業、公益事業にも積極的に取り組まれ、地域医療に根付いた事業展開をされ、いまここに創立 60 周年という意義深い年輪を重ねられたことに対して、ともに臨床検査技師に位置するものとして大いなる敬意を表する次第です。そして、地域医療の発展を担う貴技師会のご発展と皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。